

## 予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

## 事業名 少花粉ヒノキ材質検証事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 木質バイオマス産業係 電話番号：058-272-1111（内4386）

E-mail : c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 360 千円 (前年度予算額： 1,405 千円)

## &lt;財源内訳&gt;

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	1,405	0	0	0	0	0	0	0
要求額	360	0	0	0	0	0	0	360
決定額	360	0	0	0	0	0	0	360

## 2 要求内容

## (1) 要求の趣旨（現状と課題）

国のスギ花粉発生源対策推進方針において、ヒノキについても花粉の少ない森林への転換等を進めていくことが重要とされている。本県において、花粉の少ないヒノキへの転換を進めていくにあたっては、ブランド材東濃桧への良質材供給を確保した上で進めていく必要があるが、花粉の少ない桧の材質は十分に検証されていない。

また、花粉の少ないヒノキの苗木を供給するためには、母樹用苗木の育成に2年、県の育種場において植栽から種子の生産を開始するまでに3年、民間事業者による苗木生産に2年、合計7年以上を要する。国が令和15年度までにスギ花粉発生源対策を推進することを踏まえ、令和15年度までに花粉の少ないヒノキの苗木を供給するためには令和7年度内に材質検証を実施し、少花粉でかつ良質材の系統であることを明確にした後、供給に向けた育種事業地の整備が必要である。

## (2) 事業内容

## (ア) 事業目的

花粉の少ないヒノキの苗木供給に向け、岐阜県由来の少花粉ヒノキ品種（益田5号、小坂1号）について東濃桧としての材質検証を実施する。

- ・材質評価検証

### (3) 県負担・補助率の考え方

県10/10 県が東濃桧としての材質を検証するものため

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	129	評価会委員に係る報償費 (教授クラス1名×13千円×3h、専門家5名×6千円×3h)
委託費	160	・運搬費 95千円、製材、乾燥 65千円 (10.5角×3m)
旅費	61	評価会委員に係る旅費21千円、打ち合わせ等の旅費40千円
需用費	10	消耗品費
合計	360	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

(1) 災害に強い循環型の森林づくり

(イ) 100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり

### (2) 国・他県の状況

国の林木育種センターが材質特性(ヤング率)等を評価(15年次の検定林データ)している。(益田5号:評価4、小坂1号:評価4 ※5段階評価で大きいほど高評価)

### (3) 後年度の財政負担

無

### (4) 事業主体及びその妥当性

1) 事業主体: 県

2) 妥当性: 花粉の少ないヒノキの苗木供給に向け、岐阜県由来の少花粉ヒノキ品種について、東濃桧としての材質検証を実施するものため妥当。

# 事 業 評 価 調 書 (県単独補助金除く)

■ 新規要求事業
□ 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### (事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

岐阜県由来の少花粉ヒノキ品種（益田5号、小坂1号）が東濃桧として良質材を供給できる材質であるかを検証する評価委員会を令和8年度末までに開催する。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R7)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①材質検証した少花粉ヒノキの品種数		0	-	-	2	2
②						-

### ○指標を設定することができない場合の理由

### (これまでの取組内容と成果)

令 和 4 年 度	・無
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令 和 5 年 度	・無
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令 和 6 年 度	・無
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

#### ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	国が令和5年5月30日に花粉症対策の全体像を示す等、事業の必要性は増加している。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 1	東濃桧は岐阜県独自の優良ブランドであるため、少花粉ヒノキの生産普及に当たっては、その材質が優良なものであるかの評価は必須である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	必要最低限の検証規模とし効率性を高めている。

### (今後の課題)

#### ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

本事業の検証結果を踏まえ、今後、花粉の少ないヒノキの採種園整備内容について、検討していく必要がある。

### (次年度の方向性)

#### ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

### (他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	